

Photo Gallery

陸上自衛隊富士学校 東海地震を想定した災害対応訓練



▲活動拠点予備地の畑毛谷戸山運動場に移動する装甲車と大型トラック

2月16日、函南町と陸上自衛隊富士学校の戦車教導隊は、東海地震を想定した災害派遣初動対処訓練を初めて実施しました。訓練は、マグニチュード9、震度6強の東海地震が発生し、町内に多数の被害が発生したことを想定。

町が災害対策本部を立ち上げ、被害状況を収集し、自衛隊の派遣を要請。自衛隊先遣隊が役場に到着後、被害状況の確認や無線による通信訓練などの図上訓練が行われました。その後、主力部隊が装甲車や大型トラックで到着し、災害時活動拠点予備地の畑毛谷戸山運動場に乗り入れる実動訓練も行い、災害発生時の自衛隊との連携を確認しました。

北豆酪農研究会主催 函南さくら保育園「ふれあい牧場」



▲羊に触り、「気持ちいい」と話す園児たち

2月3日、函南さくら保育園でふれあい牧場が開催されました。

この会は、函南・三島・沼津・長泉の酪農家がつくる北豆酪農研究会の主催で動物とのふれあいを提供する行事です。

園児や保護者、園庭開放で訪れていた親子連れたちは、子牛にミルクをあげたり、羊にえさを与えたりしたほか、牛の乳搾り体験など動物とのふれあいを楽しみました。

また、丹那のバターを使ったじゃがバターが振る舞われ、地産地消・食育についても学びました。

三島警察署と協定締結 消費者生活侵害事犯の被害拡大防止



▲協定書に署名し、握手する森町長と杉本三島警察署長

2月6日、函南町と三島警察署は、「消費者生活侵害事犯の被害拡大防止等に向けた連携に関する協定」を締結しました。

この協定は、悪質商法や詐欺被害が疑われる相談を受けた際、相談者の同意を得て、情報を提供・共有することで被害の拡大を防ぐのが目的です。再発防止や被害回復支援の効果も期待されます。

協定の施行日は3月1日。犯罪利用口座の凍結など素早い事件対応ができ、町民に向けての啓発活動も展開できます。

宝くじの助成金により 心肺蘇生法等の訓練機材を購入



▲購入した訓練機材で講習を実施

このほど、財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業による宝くじ助成金を受けて、心肺蘇生法等の訓練に使用する機材を購入しました。

この訓練用機材は消防団に配備し、各地区で行う防災訓練などで心肺蘇生法の講習を行う際に使用します。防災訓練に参加し、いざというときに役立つ心肺蘇生法を習得しましょう。

機材の貸し出しも行います。問合せ先：総務課（979・8102）

桑村小学校6年生 卒業記念 函南運動公園に記念植樹



▲苗を植える穴を掘る児童たち

2月20日、平成25年度一部開園を目指す整備途中の函南運動公園で、記念植樹が行われました。

記念植樹には、卒業を控えた桑村小学校の6年生25人が参加しました。

児童は、運動公園の外周に、河津桜10本、サツキ70本、ツツジ140本の苗を、スコップを使って、1本ずつ植えました。

初めは、戸惑う様子も見られましたが、水を運ぶ人、肥料を運ぶ人、苗を運ぶ人など、役割分担を児童たちで決めて、みんなで声を掛け合いながら、手際の良い作業で丁寧に植えていきました。

富士山と一緒に走ろう！ 第5回伊豆マラソン大会



▲町内のコースを走る選手たち（21.7kmコースの部）

2月19日、第5回伊豆マラソン大会が開催されました。

修善寺駅をスタートし、伊豆の国市、函南町を北上し、三嶋大社をゴールする21.7kmコース、三島市内を走る10kmコース・3kmコースの3コースに分かれて行われ、町内外から3071人が参加し、早春の伊豆路を駆け抜けました。

町内のコースの沿道には、選手や家族や地域の住民などが集まり、選手たちにたくさん声援を送りました。

被り物をして走る選手、声援に笑顔で手を振り返す選手も見られ、伊豆マラソン大会を十分に楽しんでいる様子でした。